

「米の収穫を増やすには」

11月21日に、5年生は、九小米をもっとたくさん作るための勉強べんきょうをしました。講師こうしの先生は、生産指導員せいさんしどういんの赤坂あかさかさんです。



赤坂あかさかさんは、まず、九小の今年のしゅうかくりょうしゅうかくりょうが平均へいきんと比べて少なかったと教えてくれました。どうして少なかったのかな?! あんなに草も取ったのに…

赤坂あかさかさんは、その理由りゆうを考えるために、収穫量しゅうかくりょうに関わる条件じょうけんを3点あげてくれました。①肥料ひりょう ②気温きおん ③雑草・害虫・害鳥ざつそう がいちゆう がいちゆう そして、最後に、「今年の学校の田んぼはどのような状態じょうたいでしたか。よく思い出してみよう。」と問題を投げかけてくれました。よく考えないと…。



害鳥

- ▶ スズメは一般的に、米を食べる害鳥とされています。穀物の好きなスズメが、人間の米作りを見逃すはずがありません。一方、人間はスズメを追いつために罫山子(かかし)、鳴子、反射テープなど、長い闘いの歴史を繰り返してきました。
- ▶ スズメはお米を食べるだけでなく、粳(もみ)の中でお米がまだ固くならずに、ミルク状の時に吸います。お米の味わい方を良く分かっているようです。一方、スズメは田んぼの雑草の種も食べますし、春から夏の繁殖期には害虫をたくさん食べてくれます。それによって秋の収穫量を上げている側面もあります。



雑草

▶ ヒエ

タイムヒエをはじめとするノヒエは水田雑草の中でも生育量が大きいため、多発すると養分や光を横取りして、稲の生育を妨げ、収量を低下させてしまいます。つまり、ノヒエとの競争によって主に稲の穂数が減少することで減収につながります。



上の2枚は当日のプレゼンの一部です。スズメは先生が鳥よけのテープをはってくれたので、大丈夫。雑草はいっぱい生えてしまったね。草取りくさとをもっとしないと…。先生は「夏に水を出しっぱなしにしたのも原因げんいんかな」と言っていました。自分たちに出来そうなことがいっぱいありそうです。